

◆【海員随想】丹沢紀行① 小林信博

年が明けてから最初の山行きである。

今度の丹沢は計画という程のものもなく、休みを合わせて山に行こうという親友との話から、日帰りできる適当な山ということで丹沢に決めた。

丹沢山塊は大正12年の関東大地震の震源地の一部に含まれ、それによって大きく山容を変えたところから、急に有名になった山塊であり、それ以前は信仰の山であった。

これが、小田急電鉄の開通によって大きくクローズアップされ、今日のような近郊登山のメッカとなった。

ところで、私たち2人は丹沢登山としては一般的な表丹沢の表尾根、塔ノ岳、大倉尾根というコースをたどることにした。

朝6時30分新宿発、8時に歩行開始であった。しかしこれは当日の朝寝坊によって根底から覆されてしまった。結局、8時12分の小田原行き急行に乗車した。途中、下北沢から乗って来た若い女性が、私たちと向かい側の座席へ座った。地味ではあるが非常に理知的な細面の優しい目をした女(ひと)であった。2人の視線は自然とその女性に惹きつけられてしまった。その女性が相模大野で下車するまで、目をどこにも動かさなかったのも、当然のことかもしれなかった。その後の2人の会話や顔つきは、推して知るべしといったところである。

友人が大秦野で下車してすぐに「なにか忘れ物をしているような気がするけど、なんだかわからなかった」と言い出した。装備品の確認をし、マッチを忘れていたことに気がつき、あわてて売店で買った。2人ともタバコには縁がないので、気がつかなかったのかもしれない。しかし、山頂で茶を沸かして飲もうという当初の予定からすれば、マッチを忘れていたのではどうにもならないところだった。

大秦野からは蓑毛までバスで25分程であるが、30分程時間があるので、朝食を兼ねて腹ごしらえをすることにし、立ち食いの「丹沢そば」というのれんをくぐり、スタミナうどんという名の天ぷらと卵入りのうどんを食べ、バスを待った。バスを待つ乗客の9割が登山者かハイカーで、地元のバス利用者には気の毒な程の混雑であった。季節によってバスは蓑毛より先のヤビツ峠まで運行されているが、冬季は運行の安全ということから、蓑毛が終点になっている。蓑毛からヤビツ峠までは、近道である柏木林道を登って約1時間かかるので、バスがあれば、かなりの時間短縮ができるのである。私たちもこの柏木林道をたどることにした。

「海員だより」